



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月8日

上場会社名 森下仁丹株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4524 URL <https://www.jintan.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森下 雄司  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 吉田 秀章 TEL 06-6761-1131  
四半期報告書提出予定日 2024年2月8日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	9,363	12.0	946	72.2	988	68.3	735	66.5
2023年3月期第3四半期	8,361	20.3	549	578.2	587	455.2	441	226.9

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 794百万円 (4.8%) 2023年3月期第3四半期 757百万円 (485.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	180.01	—
2023年3月期第3四半期	108.23	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	17,177	12,030	70.0
2023年3月期	16,103	11,392	70.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 12,030百万円 2023年3月期 11,392百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	5.6	950	66.9	1,000	60.3	800	62.6	195.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	4,150,000株	2023年3月期	4,150,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	64,182株	2023年3月期	67,762株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	4,084,256株	2023年3月期3Q	4,080,779株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	8
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済の景気は、緩やかに回復しております。個人消費は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行により、外食・宿泊・娯楽などの対面型サービスを中心に回復しておりますが、物価高の影響で一部に弱い動きが見られます。インバウンド需要は水際対策の解除や円安の影響で大幅に増加しております。

消費者物価（生鮮食品を除く総合）は、2023年1月に前年比4.2%と約40年ぶりの高い伸びとなった後、政府の電気・都市ガス代に対する負担緩和策を受けて伸びが鈍化し、9月以降は同2%台で推移しております。

こうした経済状況をうけ、当社グループのヘルスケア事業は、第2四半期に引き続き、ナショナルブランド品の「ビフィーナ®」や「目もとパックシート」「口もとパックシート」といった、かねてよりインバウンド需要が高い製品の売り上げが復調傾向にあります。特に「ビフィーナ®」については、整腸効果をもつビフィズス菌を配合した機能表示食品分野において、27年連続売上No.1を獲得し、今年が発売から30周年の節目を迎えました。2023年12月には中国専売子ども向けサプリメントとして「ビフィーナ®Cute」を発売開始するなど、国内はもちろん、アジアを中心とした国や地域で新たなターゲット層の獲得に努めております。また今後、中国だけではなく、世界各地で拡販し、子どもたちのおなかの健康に貢献できるように試行錯誤を続けてまいります。

機能性素材販売は堅調に推移しており、今後も新規案件の獲得を進めてまいります。またジェネリック医薬品の製造販売についても、堅調に推移しており、引き続き、患者様とご家族のQOL向上につながるよう、安定供給に努めてまいります。

カプセル受託事業は、可食分野においてフレーバーカプセルの販売が、産業用（非可食）分野においては化粧品シームレスカプセルが引き続き堅調に推移しております。また、2022年に発表した腸内の特定部位で崩壊するカプセル技術（大腸送達性製剤）の研究・開発を継続しており、製品化を目指しています。今後も、高付加価値シームレスカプセルの開発・製造、オープンイノベーションによるパートナーとの共創を推進してまいります。また、そこで得られた知見を新たなシームレスカプセル技術開発に応用するサイクルを構築して、社会へシームレスカプセル技術を通じたソリューションの提供を続けてまいります。

また、2023年12月にはワダカルシウム製薬株式会社の製造部門を会社分割により当社の100%子会社「株式会社MJ滋賀」として取得し、当社グループに加わりました。同社の食品、医薬品製造にかかる錠剤の製剤技術、及び製造、品質管理のノウハウを当社の持続的な成長及び企業価値最大化へつなげるべく、今後も事業を展開してまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高9,363百万円（前年同四半期比12.0%増）、営業利益946百万円（前年同四半期比72.2%増）、経常利益988百万円（前年同四半期比68.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益735百万円（前年同四半期比66.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### ① ヘルスケア事業

当セグメントにおきましては前述のとおり、「ビフィーナ®」をはじめとしたインバウンド需要と親和性の高い製品が復調にあり、また現地代理店との連携によりアジア地域での売り上げも堅調に推移しております。

当セグメントにおきましては、売上高は、6,321百万円（前年同四半期比0.1%増）、セグメント損失は、一時的な在庫評価減による影響で37百万円（前年同四半期はセグメント利益144百万円）となりました。

#### ② カプセル受託事業

当セグメントにおきましては、フレーバーカプセルの製造受託による売上が前年同四半期と比べ増収となりました。今後もパートナー企業やアカデミアとの共同研究により、シームレスカプセルを用いた社会課題解決への取り組みを展開してまいります。

当セグメントにおきましては、売上高は、3,036百万円（前年同四半期比48.4%増）、セグメント利益は、977百万円（前年同四半期比143.1%増）となりました。

#### ③ その他

当セグメントにおきましては、売上高は、5百万円（前年同四半期比101.8%増）、セグメント利益は、5百万円（前年同四半期比101.8%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は7,444百万円となり、前連結会計年度末に比べ298百万円増加いたしました。これは主に仕掛品が404百万円増加したことによるものであります。固定資産は9,733百万円となり、前連結会計年度末に比べ775百万円増加いたしました。これは主に土地が259百万円、建物及び構築物が249百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、資産合計は、17,177百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,073百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は3,237百万円となり、前連結会計年度末に比べ419百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が300百万円増加したことによるものであります。固定負債は1,909百万円となり、前連結会計年度末に比べ16百万円増加いたしました。これは主に約定返済により長期借入金が94百万円減少しましたが、退職給付に係る負債が45百万円、繰延税金負債が14百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。この結果、負債合計は、5,147百万円となり、前連結会計年度末に比べ436百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は12,030百万円となり、前連結会計年度末に比べ637百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が571百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.0%（前連結会計年度末は70.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年9月14日の「通期業績予想の修正並びに配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,409	1,444
受取手形及び売掛金	2,355	2,517
商品及び製品	764	996
仕掛品	735	1,140
原材料及び貯蔵品	740	1,076
その他	152	279
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	7,145	7,444
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,301	1,550
機械装置及び運搬具（純額）	908	1,005
土地	1,891	2,150
その他（純額）	360	484
有形固定資産合計	4,461	5,191
無形固定資産	353	302
投資その他の資産		
投資有価証券	4,077	4,174
その他	65	64
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	4,142	4,239
固定資産合計	8,957	9,733
資産合計	16,103	17,177

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,375	1,378
短期借入金	—	300
1年内返済予定の長期借入金	227	164
未払費用	473	446
未払法人税等	166	209
賞与引当金	207	171
その他	368	567
流動負債合計	2,818	3,237
固定負債		
長期借入金	242	147
繰延税金負債	971	986
退職給付に係る負債	658	703
その他	20	72
固定負債合計	1,892	1,909
負債合計	4,711	5,147
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,537	3,537
資本剰余金	968	969
利益剰余金	5,172	5,744
自己株式	△114	△108
株主資本合計	9,563	10,142
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,826	1,885
退職給付に係る調整累計額	1	1
その他の包括利益累計額合計	1,828	1,887
純資産合計	11,392	12,030
負債純資産合計	16,103	17,177

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	8,361	9,363
売上原価	4,405	4,709
売上総利益	3,956	4,654
販売費及び一般管理費	3,406	3,708
営業利益	549	946
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	32	40
その他	7	3
営業外収益合計	39	44
営業外費用		
支払利息	1	1
その他	0	0
営業外費用合計	2	2
経常利益	587	988
特別利益		
負ののれん発生益	—	5
特別利益合計	—	5
税金等調整前四半期純利益	587	993
法人税、住民税及び事業税	113	275
法人税等調整額	32	△16
法人税等合計	145	258
四半期純利益	441	735
親会社株主に帰属する四半期純利益	441	735



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	441	735
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	315	58
退職給付に係る調整額	0	△0
その他の包括利益合計	315	58
四半期包括利益	757	794
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	757	794

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

特定子会社の異動には該当していませんが、当第3四半期連結会計期間より、株式会社MJ滋賀は株式の取得により連結子会社となったため、同社を連結の範囲に含めております。

(セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,313	2,045	8,358	2	8,361	—	8,361
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	6,313	2,045	8,358	2	8,361	—	8,361
セグメント利益	144	402	546	2	549	—	549

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,321	3,036	9,357	5	9,363	—	9,363
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	6,321	3,036	9,357	5	9,363	—	9,363
セグメント利益 又は損失(△)	△37	977	940	5	946	—	946

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。